

平成30年9月8日移動教育委員会・意見交換要旨

(石田委員) 皆さんの地域で、PTAのOBや、子供の祖父母世代の方を巻き込んだ活動をしているような事例はあるか。

(参加者) 幼稚園や小学校の草取りをPTAやボランティアで行っているが、祖父母世代にシルバー人材の形でお願いしている例がある。

(参加者) 祖父母世代に子供の面倒を見てもらっている間に、事故や怪我があった場合には、責任問題となるのではないかと心配であるが、どのように対応しているのか。

(石田委員) 自分の孫がいる学校での活動が基本で、地域のパトロールなどを行っているような例が多いと聞いている。

(鈴木委員) コミュニティ・スクールのモデル校の方について、皆さんの立場では、コミュニティ・スクールとどのような形で関わっているか。

(参加者) 学校の授業で、例えば家庭科の授業でミシンの補助をするようなボランティアを募って実施しているほか、小学校のクラブ活動の指導者など、地域の力を活用して運営している。PTAとの関わりとしては、参観会の日にコミュニティ・スクール協議会という会議を設けており、地域や学校と話し合いをしている。

(参加者) これからどのような取り組みをしていけるか、勉強しているところである。地域の大人が共通認識を持ち、どのような人材がいるか周知して、学校と地域で協力していくことが重要であると感じている。

(参加者) コミュニティ・スクールについては、あまり承知していない。

(参加者) 昔からの町で、祭りや運動会などの行事で地域の結びつきが強く、児童生徒による清掃ボランティアの会などが行われている。コミュニティ・スクールが実施されたが、元々地域の中に学校があるという感覚で、自然と関係性ができている印象である。

(安田委員) 学校が新たに担ってきた様々な事柄で、例えば環境教育、情報教育、消費者教育、防災教育などがあるが、学校に代わって家庭や地域で引き受けられるようなものについて、皆さんの立場で何か感じられていることはあるか。

(参加者) 夏休みの期間について、2学期の開始が早まっていて、家族で過ごす時間が少なくなっている。働いている母親が多いことを考慮して学校で面倒を見るために行っているのであれば、夏休みは普段できないことをしたいと考えているため、少し残念である。

(参加者) 子供が土日もなく毎日部活動で、教職員が一生懸命やられているのは大変ありがたいが、家庭でのコミュニケーションが取りづらくなっている。教職員の働き方改革も含めて、活動を緩和してほしい。

(指導課長) 部活動ガイドラインについて、来年の9月からの完全実施を考えており、活動時間に制限をかける方向で進んでいる。国においては、平日は放課後2時間、土日は3時間程度が望ましいとされている。浜松市では時間単位ではなく、コマ数で実施する予定で、放課後で1コマ、土日は午前と午後で4コマ、という考え方で、平日5コマのうち1コマは休養日、土日は4コマのうち1コマ活動する、というものである。大会等については、参加上限数を設けながら、コマの考え方から外しつつ、確実に休養日を設けられるように整理しているところである。

(参加者) 教員の負担を減らすという話とは反対に、自分の学校ではPTAの資料作成や印刷などをPTA役員が行っており負担が大きい。他の学校では教職員が行っているところがあると聞いたため、学校のできるのであれば、学校でやってほしい。

(安田委員) PTAの資料作成等は、基本的に学校が中心になって行っているケースが多い印象であり、PTA役員が担っているのは非常に先進的だと感じる。

(参加者) 学校で行っていること、PTA・地域が行っていることについての負担状況など、調査はされているか。

(安田委員) 保護者に対して、学校評価という形でアンケートを取っている。

(参加者) 部活動を抑制してほしいという保護者もいれば、もっと活動してほしいという保護者もいる。

(参加者) 教育長講話の中で、部活動も自主性を持って行うということであったが、どのようにして自主性を発揮させるのか。

(花井教育長) 部活動の所属を強制ではなくし、ボランティアなど緩やかな活動も認める

ような方向となっている。

(指導課長) 来年度の新入学生から、部活動は強制ではなくなることに加えて、現在入部している生徒についても見直し、辞めても良い、という選択肢を示すような流れを想定している。また、中長期的には、社会教育部局や関係団体に働き掛け、部活が縮小した際の受け皿作りを進めていきたい。

(黒柳委員) 先日の台風の際、各学校長の判断で休校等の判断をすることとなったが、皆さんの学校ではどのような対応であったか。もしくは、保護者として学校にどのような対応をしてほしいと感じたか。

(参加者) 当日の朝に連絡があったところと、前日のうちに休校を決定して連絡があったところがあった。前日に決めてくれた方が動きやすいため、ありがたい。

(参加者) 当日の朝6時半に休校の連絡があったが、家が遠い子供は既に登校中という家庭もあった。また、各家庭から学校への問い合わせも多かったと聞いているため、なるべく早い対応をしていただきたい。

(健康安全課長) 暴風警報が出れば休校、また、天竜区は大雨警報で休校となる。それ以外は学校長判断となるが、場合によっては教育委員会で一斉休校を指示する場合もある。先日の台風については、静岡地方気象台から情報収集し、静岡県は暴風域に入るか入らないかの境目で、暴風警報発令の可能性は低い、という判断であったため、一斉休校の指示ではなく、学校長による判断となったところである。給食の実施・中止等についても課題があったところであり、今後は、近隣の市町の対応も含めて、今回の件を検証し、より適切な対応ができるようにしていきたい。

(参加者) 子供の自己肯定感や自主性を育むために、どのような教員育成を行っているか。また、家庭に対してどのような働き掛けをしているか。

(指導課長) 自己肯定感を自己有用感という捉え方をし、誰かの役に立っているという心持ちを育てるために、ご家庭では愛着心を持って子供に接していただきたい。様々な人や物事と接して、その中で出てくる子供の現われを認めていくことが重要である。学校でも、体験学習やコミュニティ・スクールなどを通じて、様々な人や物事に触れる機会を提供しており、その内容については教育センターと指導課で教員向けの研修会を定期的に開催している。具体的には、各学校にいる生徒指導主事や生徒指導主任、特別活動主任向けに、学識経験者や実践家を招いて講演を聞いたり、ワークショップを開催したりしている。

(参加者) そういったことは、家庭にはどのようにして伝えていくのか。

(花井教育長) 家庭向けのリーフレットの配付や家庭教育講座を実施しているところだが、今後も様々なチャンネルで発信していきたいと考えている。

(参加者) 中学校の子供のリュックサックが重く、負担になっていることに加えて、姿勢も悪くなってしまう。毎日教科書を持って帰らなければいけないのか、検討してほしい。

(参加者) 学校に訊ねたところ、その日に使った教材は毎日持って帰るように言われている。すべて持って帰る必要があるのか疑問であり、軽減できないか考えてほしい。

(参加者) その日の宿題だけ持って帰り、それ以外は学校の机等にしまっておくようにできれば良いと思う。

(指導課長) 教科書を置いて帰ってもよいとしている学校が増えていると聞いている。合理的に対応するよう促していくが、学校によってはロッカーの大きさなどの問題もあり、一律には決められない部分があるため、各学校で話題にしていただけるとありがたい。

(参加者) 市内の小中学校へのエアコン設置について、どのような状況であるか。

(教育施設課長) 今年度整備手法について、どのように短期間で数多く設置することができると決定し、これに基づいて来年度から事業を進めていき、平成32年8月までに完了させる予定である。